

岡崎市共創イノベーション推進戦略

1) 策定の背景・目的

市内の中心的な産業である、ものづくり産業では、多くの中小ものづくり企業が、垂直統合型のサプライチェーンの一角として商品・サービスの付加価値創出に貢献してきました。一方、ものづくりの中心である自動車産業では 100 年に一度といわれる大きな変革期を迎えているといわれ、これまでのサプライチェーンを維持するだけでは経営が難しくなると予想される局面が到来しています。

さらに、中小ものづくり企業が事業を推進していく上で、DXやカーボンニュートラルはじめ様々な課題が急速に顕在化しています。中小ものづくり企業には、こうした課題に対応していく一方、それらを新たなビジネスチャンスとして捉え、従来のサプライチェーンから脱却し、自らがイノベーションを創出していくような、新たなチャレンジが求められています。

近年、様々なステークホルダーと連携しながら、新たな付加価値を生み出していく共創が注目されています。共創は人材やネットワークが限られた中小ものづくり企業がイノベーションを創出するにあたって有効なアプローチとなり得えます。

そこで、共創のためのプラットフォームを構築することで、中小ものづくり企業のマインドチェンジを誘発し、新たな付加価値の創出へとつなげていくことで、新産業創出などを目指します。

2) 市内中小ものづくり企業を取り巻く外部環境

市内中小ものづくり企業を取り巻く外部環境について、PEST分析のフレームを用いて整理しました。

①政治 (Politics)

- ウィズ・コロナ期における行動規制とポスト・コロナ期に向けた段階的緩和
- 世界的な脱炭素化の動きと 2050 年カーボンニュートラル宣言
- 大国間のパワーバランスの変化に伴う地政学的リスクの増大
- 成長と分配の好循環を目指す新しい資本主義への取組
- Society5.0 実現に向けた取組
- 労働力確保に向けた人材投資、働き方改革などへの取組

②経済 (Economy)

- コロナ禍での人流抑制による飲食・宿泊・サービス業の停滞
- サプライチェーン停滞、原材料／モノ不足による不況への懸念
- デジタルテクノロジーの発展に伴う知識集約型経済へのシフト
- 資源制約・環境制約の拡大に伴うサーキュラー・エコノミーの要請
- ベンチャー・スタートアップによるイノベーション・ダイナミズムへの期待
- 少子化・人口減少に伴う国内の労働力減少、国内市場縮小

- 先進国中、最も低位な労働生産性、横ばいの続く経済成長率

③社会 (Society)

- コロナ禍での行動制限に伴う様々な行動変容（在宅勤務、巣ごもり消費など）
- SDGs 達成や脱炭素化に向けた社会システムやライフスタイル転換の可能性
- 気候変動に伴う水害等自然災害リスクの顕在化
- 高齢化・長寿命化に伴う人生 100 年時代の到来
- 少子化・人口減少に伴う担い手不足による社会活動の停滞・衰退への懸念
- 平準化・多様化に伴う不確実性の高まり（VUCA 時代）

④技術 (Technology)

- CASE・MaaS など移動手段の変化(自動車産業の 100 年に一度の大変革)
- ドローンや自動運転車など配送手段の変化
- EC やキャッシュレス等による購入／決済手段の変化
- xR やメタバースによる空間認知の拡大・変化
- クリーン・エネルギーなどの利用拡大
- 次世代通信規格（5G／6G）による大容量データ取得・提供、セキュリティ高度化の要請
- デジタルツイン等、生産加工技術の変革

以上より、市内中小ものづくり企業を取り巻く外部環境は、地政学上のリスクや大規模自然災害によるリスクなど、様々な要因から不確実性が高まっています。特に、今後も、新型コロナウイルス感染症のような想定外のリスクが突然顕在化する可能性もあります。

一方、デジタル技術の発展は、社会経済活動に大きな影響を及ぼしており、産業競争力の源泉が労働集約型から知識集約型へと移行しています。市内中小ものづくり企業においても、労働生産性の向上や新事業展開、付加価値向上を図るための新たな成長エンジンとして、デジタル技術の活用を図っていくことが求められます。

3) 戦略が目指す姿

共創による「シン」産業創出

- ✓ 共創のプラットフォームを通じた取組により、市内中小ものづくり企業のマインドチェンジが図られ、様々な共創プロジェクトが創出・推進されることで、次代の岡崎市経済を牽引する新産業の創出や、中小ものづくり企業の新事業展開などを図ります。

4) 上位・関連計画等との関係性

①岡崎市産業労働計画

本市では、『仕事のしやすい働き甲斐のある共創イノベーション』の実現を将来都市像に掲げた「岡崎市産業労働計画」を令和3年3月に策定しています。

同計画は、政策分野を縦割した内容となっておりますが、本戦略は共創による産業競争力強化をミッションとした目標達成型の施策をパッケージ化したものとなり、同計画のアクションプランとしての位置づけを有します。

②愛知県スタートアップ政策（Aichi-Startup 戦略）

愛知県では、スタートアップ企業を起爆剤としてイノベーションを誘発していくことを目指し、「ステーションAi」プロジェクト中核とした戦略を推進しています。本市では、県の取組を踏まえ、ビジネスチャンスを求めるスタートアップとの効果的な連携を、本戦略の取組などを通じて目指していきます。

③成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業）

経済産業省による補助事業で、中小企業が大学・公設試験研究機関等と連携して行う、ものづくり基盤技術の高度化につながる研究開発やその事業化にかかる費用を補助するものです。

産学連携による共創の推進につながることから、その活用を図りながら、中小ものづくり企業の取組を支援していきます。

5) 取組の方向性

①担い手・参画主体

■Okazaki 共創HUBの組成（推進母体となる組織）

岡崎ものづくり推進協議会を事務局として、共創イノベーションの推進母体となる組織「Okazaki 共創HUB」を組成します。

事務局 岡崎ものづくり推進協議会

構成員 岡崎市、商工団体（岡崎商工会議所、額田商工会、六ツ美商工会）、金融機関、
メンター（※）

※メンターとは「指導者」「助言者」などを意味しており、ここでは、共創HUBの組成に賛成的な意見を持つ、マッチングで成功した企業経営者や、地元企業に影響力がある企業経営者などを想定しています。

■市内ものづくり中小企業

事業環境の変化を見据えた自社事業の変革を目指す企業を対象とします。ものづくり推進協議会の会員企業や、新たな事業展開を指向する2代目などの次世代の経営者をターゲットに、参画企業の掘り起こしを進めます。

■スタートアップ・ベンチャー

共創イノベーション創出にあたっての市内中小ものづくり企業の連携先であり、例えば、中部地区におけるアントレプレナープログラムである Tongali プロジェクトとの連携を図るなど、市内に留まらず、また創業前（プレシード期）を含め、様々なスタートアップ・ベンチャーとのネットワークを形成します。

②イノベーション推進戦略プロジェクト

■Okazaki 共創データベース<管理：岡崎市>

共創イノベーションの根幹となるツールであり、企業間のマッチングやネットワーキング等に向けた企業探索等において、最初に参照するデータベースです。市内中小ものづくり企業、メンター、スタートアップ・ベンチャーのデータベースで構成されます。

※データベースの管理は岡崎市がおこなうことを想定。

<市内中小ものづくり企業データベース>

市内中小ものづくり企業の創業年、従業員数、資本金、業種などの基本情報の他、取引先や特徴的な技術、新事業開拓の動向、事業承継の動向などが整理されたデータベースを構築します。

情報収集は、ものづくりコーディネーターが中心となり、中小ものづくり企業への個別ヒアリングにて把握します。なお、会員企業へのものづくりコーディネーターが定期的に訪問することで、データベースを定期的に更新します。

<メンターデータベース>

岡崎市との何らかの接点がある市外在住の有識者、経営者の情報を整理したデータベースです。市内高校の同窓生ネットワークなどを活用し、岡崎市に縁故のある方を幅広く捉えていきます。

はじめにOkazaki 共創HUB構成員の有するデータを名寄せした上でデータベースを構築し、その後、新たな情報を追加していきます。どのような経緯でデータベースへの登録に至ったのかといった縁故情報を個人ごとに記載することで、協力依頼のファーストコンタクトが円滑にできるようになります。

<スタートアップ・ベンチャーデータベース>

共創先となるベンチャー・スタートアップのデータベースを構築します。創業年、従業員数、資本金、業種などの基本情報の他、特徴的な技術、連携希望先などの情報を整理します。中部地区におけるアントレプレナープログラムである Tongali 事務局などの関係団体と連携を図り、定期的に更新を図ります。

■Okazaki 共創ネットワーク<Okazaki 共創HUB>

Okazaki 共創HUBの構成員が有するマッチングやネットワーキングに係るニーズ、情報

を共有する場を設け、市内中小ものづくり企業による共創に向けたアレンジやプロジェクト組成に向けた検討など、自然発生的におこなわれるようなつながりを形成します。

■共創テーマ／ターゲットの提示<岡崎市>

Urban Innovation OKAZAKI の継承・発展プロジェクトとして設計します。Okazaki 共創HUBを通じて社会課題等を提示し、市内中小ものづくり企業とスタートアップ・ベンチャーによるプロジェクトの組成・展開を支援します。また、行政手続きの簡略化などの社会実装支援をおこなうことで、スタートアップ・ベンチャーにとって魅力ある環境を提示します。

■出会いの場となるイベント等の開催<Okazaki 共創HUB>

岡崎ものづくりフェアやピッチイベントなど、Okazaki 共創HUBの構成員主催による、市内での交流促進イベントを開催するとともに、メッセナゴヤをはじめ市外展示会・商談会等への出展支援などをおこなうことで、市内中小ものづくり企業同士、また市外事業者などとの緩やかなつながりの形成を支援します。

■草の根共創の支援<岡崎市>

上記の「出会いの場」を通じて知り合った事業者による自主研究会などが組成された場合には、活動費などの支援をおこなうなどの対応により、共創プロジェクトへと発展するよう、支援します。

■共創プロジェクトの展開<Okazaki 共創HUB>

市内中小ものづくり企業およびスタートアップ・ベンチャーのマッチングにより創発したプロジェクトの展開を支援します。メンターによる伴走支援や岡崎市ものづくり支援補助金(※)の優先配分など注力支援をおこない、イノベーション創出へとつなげていきます。

※制度の拡充なども検討します。

岡崎市共創イノベーション推進戦略

1. 岡崎市共創イノベーション推進戦略の主旨

○策定の背景・目的

- 市内の中心的な産業である、ものづくり産業では、多くの中小ものづくり企業が、垂直統合型のサプライチェーンの一角として商品・サービスの付加価値創出に貢献してきた。一方、自動車産業では100年に一度といわれる大きな変革期を迎えているといわれ、これまでのサプライチェーンを維持するだけでは経営が難しくなると予想される局面が到来している。
- さらに、中小ものづくり企業が事業を推進していく上で、DXやカーボンニュートラルはじめ様々な課題が急速に顕在化している。中小ものづくり企業には、こうした課題に対応していく一方、それらを新たなビジネスチャンスとして捉え、従来のサプライチェーンから脱却し、自らがイノベーションを創出していくような、新たなチャレンジが求められている。
- 近年、様々なステークホルダーと連携しながら、新たな付加価値を生み出していく共創が目ざされている。共創は人材やネットワークが限られた中小ものづくり企業がイノベーションを創出するにあたって有効なアプローチとなり得る。
- そこで、共創のためのプラットフォームを構築することで、中小ものづくり企業のマインドチェンジを誘発し、新たな付加価値の創出へとつなげていくことで、新産業創出などを旨とする。

○岡崎市産業労働計画との関係

- 本市では、『仕事のしやすい働き甲斐のある共創イノベーション』の実現を将来都市像に掲げた「岡崎市産業労働計画」を令和3年3月に策定した。計画は、政策分野を縦割したものであるのに対して、戦略は共創による産業競争力強化をミッションとした目標達成型の施策をパッケージ化したものとなる。

○愛知県スタートアップ政策との関係

- スタートアップ企業を起爆剤としてイノベーションを誘発していくことを目指し、「ステーションAi」プロジェクト中核とした戦略を推進している。本市では、県の取組を踏まえ、ビジネスチャンスを求めるスタートアップとの効果的な連携を目指していく。

○戦略が目指す姿

- 「シン」産業創出に取り組むチャレンジ意欲旺盛な企業が集積するとともに、その取り組みが内外から認知され、人材や投資を新たに呼び込む好循環を生み出す、強い産業ブランド力のある地域の形成を目指す。

【政治 Politics】

- ウイズ・コロナ期における行動規制とポスト・コロナ期に向けた段階的緩和
- 世界的な脱炭素化の動きと2050年カーボンニュートラル宣言
- 大国間のパワーバランスの変化に伴う地政学的リスクの増大
- 成長と分配の好循環を目指す新しい資本主義への取組
- Society5.0実現に向けた取組
- 労働力確保に向けた人材投資、働き方改革などへの取組

【社会 Society】

- コロナ禍での行動制限に伴う様々な行動変容(在宅勤務、巣ごもり消費など)
- SDGs達成や脱炭素化に向けた社会システムやライフスタイル転換の可能性
- 気候変動に伴う水害等自然災害リスクの顕在化
- 高齢化・長寿命化に伴う人生100年時代の到来
- 少子化・人口減少に伴う担い手不足による社会活動の停滞・衰退への懸念
- 平準化・多様化に伴う不確実性の高まり(VUCA時代)

【経済 Economy】

- コロナ禍での人流抑制による飲食・宿泊・サービス業の停滞
- サプライチェーン停滞、原材料/モノ不足による不況への懸念
- デジタルテクノロジーの発展に伴う知識集約型経済へのシフト
- 資源制約・環境制約の拡大に伴うサーキュラー・エコミーの要請
- ベンチャー・スタートアップによるイノベーション・ダイナミズムへの期待
- 少子化・人口減少に伴う国内の労働力減少、国内市場縮小
- 先進国中、最も低位な労働生産性、横ばいの続く経済成長率

【技術 Technology】

- CASE・MaaSなど移動手段の変化(自動車産業の100年に一度の大変革)
- ドローンや自動運転車など配送手段の変化
- ECやキャッシュレス等による購入/決済手段の変化
- xRやメタバースによる空間認知の拡大・変化
- クリーン・エネルギーなどの利用拡大
- 次世代通信規格(5G/6G)による大容量データ取得・提供、セキュリティ高度化の要請
- デジタルツイン等、生産加工技術の変革

岡崎市産業労働計画

作り続け、考え続ける進化する計画

共創イノベーション戦略

市内ものづくり中小企業のマインドチェンジ

想定外の事業/産業構造変化への対応
リアル/アナログ⇒デジタル/バーチャルへの脱却

Aichi-Startup
戦略

共創による「シン」産業創出

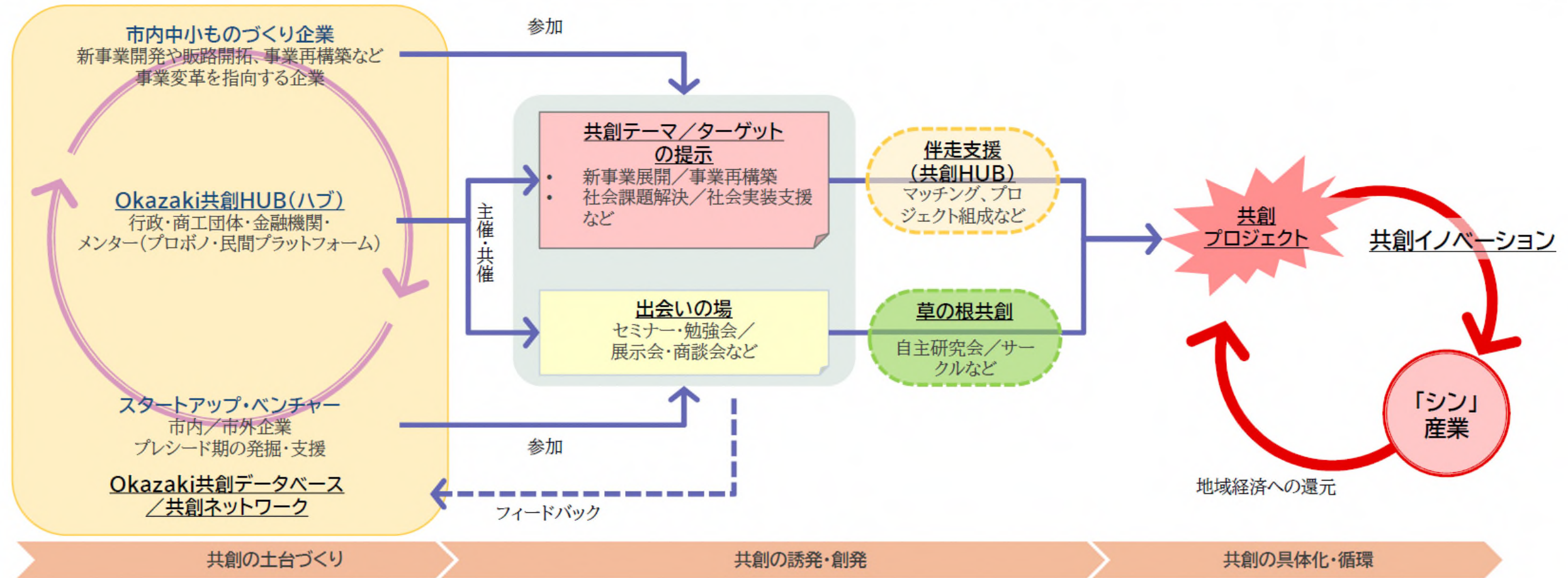
「シン」:新(新産業)、芯(コアコンピタンス)、伸(成長)、進(進歩・進化)

成長型中小企業等研究
開発支援事業
(Go-Tech事業)

岡崎市共創イノベーション推進戦略

2. 岡崎市共創イノベーション推進戦略

- 市内モノづくり中小企業とスタートアップ・ベンチャーとの共創イノベーションによる「シン」産業創発に向けた戦略フレームを整理する。
- 共創イノベーションの担い手のデータやネットワークを土台として、「共創HUB」を中核にモノづくり中小企業とスタートアップ・ベンチャーの共創の誘発・創発を図り、イノベーションへとつなげていく。



【担い手・参画主体】

○Okazaki共創HUB

- 本戦略の中核となる主体・担い手。行政をはじめとした組織の他、岡崎市との地縁・血縁を有する外部人材をメンターに迎え、共創の創発・誘発を図る支援・取組を展開。
- メンターはプロボノ人材の他、民間プラットフォームの活用による確保も視野。

○市内中小ものづくり企業

- 事業環境変化を見据えた自社事業の変革を目指す企業（潜在的指向企業を含む）。アツギなど、次世代の経営者をターゲットとする。

○スタートアップ・ベンチャー

- 共創イノベーションの連携先。Tongaliプロジェクトとの連携など、プレシード期を含む様々なスタートアップ・ベンチャーとのネットワークを形成。

【イノベーション推進戦略プロジェクト】

○Okazaki共創データベース<岡崎市>

- 参画主体の所属・役職・氏名・連絡先などリスト化する。共創イノベーションの根幹となるツールであり、随時更新し、バージョンアップを図る。

○Okazaki共創ネットワーク<Okazaki共創HUB>

- 参画主体同士の自然発生的なつながり。必要に応じて紹介・仲介がおこなわれるようなつながりを形成。

○共創テーマ/ターゲットの提示<岡崎市>

- 市内モノづくり中小企業とスタートアップ・ベンチャーのマッチングを図るための公募事業などを展開する。
- 行政主導による社会実装支援により、スタートアップ・ベンチャーにとって魅力ある環境を提示する。

○出会いの場<Okazaki共創HUB>

- 共創ネットワーク形成につながるよう、セミナー等で交流の場を設けることで、参画主体の緩やかなつながりを形成する。

○草の根共創<岡崎市>

- 出会いの場で形成されたつながりから、自主研究会/サークルなどの組成、さらには共創プロジェクトへの発展を促すため、活動費などを補助。

○共創プロジェクト<Okazaki共創HUB>

- 市内中小ものづくり企業およびスタートアップ・ベンチャーのマッチングにより創発したプロジェクトの展開を支援。メンターによる伴走支援や岡崎市ものづくり支援補助金の優先配分など、イノベーション創出につながる取組を支援。